

総合資料館だより

2007.4.1 No.151



▲『再撰花洛名勝図会 東山之部』より

祇園林夜櫻

灯りにほの白く浮かび上がる桜の木々。今も昔も変わらぬ、夜桜見物の風情です。

「^{ぎおんばやし}祇園林夜櫻」と題された挿絵には、篝火がたかれ、提灯がかかげられた下に、多くの人々が繰り出しています。

祇園林は、祇園社（現八坂神社）境内及びその周辺の林をさします。謡曲「^{ゆや}熊野」に「花やあらぬ初桜の、祇園林下河原」とうたわれたように、古くから桜の名所だったと思われます。江戸時代は北林・南林に分かれていましたが、南林は開発などで樹木を失い、明治には北林をとどめるのみになっていたようです。

ここに掲載した『再撰花洛名勝図会 東山之部』は、元治元(1864)年に刊行されたもので、暁鐘成、四方義休、楳川重寛の3名が挿絵を描いた墨摺本です。この「祇園林夜櫻」は楳川重寛の作品です。

目次	祇園林夜櫻…………… 1	文献課の窓から「奥田輝一郎氏旧蔵 版画関係資料」…… 2
	歴史資料課の窓から「記録の中の“新選組” その2」… 4	最近の収集資料から…………… 6
	平成19年度事業予定…………… 7	
	「京都府庁旧館等記録写真資料」公開、友の会事務局から 他…………… 8	

奥田輝一郎氏旧蔵 版画関係資料

京都の版画作家、故奥田輝一郎氏(1910-2001)が所蔵されていた版画関係資料63点214冊をご子息の奥田滋生氏よりご寄贈いただきました。資料は、昭和初期に発行された創作版画誌が中心です。そのいくつかは作家自らが手摺りした版画を貼り付けた形態のもので、発行部数も少なく、一枚一枚が美術品として価値のあるものです。そのため作品が剥ぎ取られ、発行当時の形態を留めていることは少ないと言われているのですが、今回は発行当時に近い状態でご寄贈いただきました。

創作版画誌発行の背景や旧所蔵者のご経歴と、寄贈資料のいくつかをご紹介します。

〈創作版画誌発行の背景〉

創作版画誌発行の背景には、明治30年の終わり頃から続く創作版画運動がありました。それまで、浮世絵に代表される日本の伝統的な版画は、絵師、彫師、摺師という専門職人の共同作業によって成り立っていました。それに対し、創作版画運動は、作家自ら画を描き、自ら彫り、自ら摺るという「自画自刻自摺」により、オリジナリティあふれる作品を作ろうという運動でした。このようにして作られた版画は、それまでの版画とは区別し、創作版画と言われるようになりました。創作版画運動は各地に広がり、大正後期から昭和初期にかけて、各地で多くの創作版画誌が創刊されました。

〈忘れられた京都の版画家、奥田輝一郎〉

奥田輝一郎氏は明治43年1月19日生まれです。地元の京都市立壬生尋常小学校（現京都市立朱



奥田輝一郎氏自画像
（『白と黒』第30号より）

雀第一小学校）に進み、卒業後は錦小路大宮西入にあった住居兼工房で、父輝一氏とともに友禅職人として働いていました。昔から絵画に興味があり、10代の頃は油絵を中心に創作活動をしていましたが、20歳前後から版画の制作を始めるようになりました。時代は、まさに創作版画運動の全盛期でした。

確認できる最初の作品は、雑誌『白と黒』25号(昭和7年7月)の「松の芽」で、輝一郎氏22才の作品です。輝一郎氏の作品には、名前の「輝」の字から「TERU」と署名されていました。これ以降、輝一郎氏は白と黒社発行の『白と黒』『版芸術』『郷土玩具集』『土俗玩具集』『おもちゃ絵集』に毎月のように作品を送り、その作品数は73点にのぼります。

輝一郎氏の版画のモチーフに多いものは、花、京都の風景、そして京都の郷土玩具である伏見人形でした。『版芸術』37号(昭和10年4月)「全国郷土玩具集の4 伏見人形版画集」は、1冊すべて輝一郎氏の手による伏見人形作品集となっています。白と黒社の版画誌上、輝一郎氏は京都を代表する版画家として大いに活躍していました。

また一方で、日本版画協会展覧会第2～6回(昭和7～12年)、京都工芸美術展覧会第3回(昭和7年)、市展第2、3、5～8回(昭和12～18年)に作品を出品しています。これらは全て、友禅職人を続けながらの創作活動でした。

しかし、昭和11年頃から白と黒社の創作版画誌が相次いで最終号を迎え、輝一郎氏の作品発表の場は次第に狭まっていきます。戦後は、版画よりも油絵での創作活動が主となったこともあり、版画家奥田輝一郎氏は、時代とともに忘れられていくことになりました。

輝一郎氏が亡くなられたのは平成13年5月13日、享年91才でした。ご遺族が遺品を整理され、

この大量の版画誌が見つかるまでは、ご遺族も輝一郎氏が版画をされていたということをご存じなかったそうです。昭和初期に活躍した京都の版画家、奥田輝一郎。その作品は多数にのぼるにも関わらず、輝一郎氏について記した資料はほとんどありません。今回、ご子息の奥田滋生氏、伏見人形の研究者村上敏明氏のご協力により、輝一郎氏の創作活動の足跡をたどり、世に公表できましたことをこの場を借りてお礼申し上げます。

〈寄贈資料紹介〉

創作版画誌『白と黒』『版芸術』

2誌ともに、美術評論家である料治熊太^{りょうじくまた}が立ち上げた「白と黒社」から発行された創作版画誌です。棟方志功^{たになかやすのり}や谷中安規などの作品発表の場であり、地方で活躍する創作版画家たちとの交流の場でもあったという意味で、近代版画史上、大変重要な意味を持つ雑誌です。

料治は『白と黒』を同人の版画技術研鑽の場と考え、手摺り作品を貼り付けて製本することで、その作品の持つ迫力を見る人に伝えました。また、プロ・アマを問わず広く作品を掲載し、大衆化にも努めていました。しかし、手摺り作品ゆえに発行部数は平均60部と大変少ないもの



でした。そこで『白と黒』を補完するものとして『版芸術』という機械摺りの版画誌を創刊し

ます。こちらは400～500部作製することができ、版画の大衆化に大いに役立ったほか、『白と黒』を全国的に知らしめることに成功しました。

京都の創作版画誌『大衆版画』

創作版画運動は地方にも波及し、大阪、神戸、青森、長野、大分などで数多くの創作版画誌を誕生させました。ここ京都では、徳力富吉郎が中心となり昭和6年8月に『大衆版画』が創刊されま



した。第1輯には前川千帆^{せんぽん}、亀井藤兵衛、川西英^{ひで}、前田藤四郎、麻田辨次、徳力富吉郎の作品が載せられています。

『榎の会（版交の会）作品集』第2、6回



これは榎の会（2回目までは版交の会）会員から送られてきた版画の年賀状を挟んだアルバム

です。榎の会は、童画家武井武雄が主宰した年賀状交換の会でした。参加者は毎年1月7日までに年賀状を封筒に入れて、自分以外の会員に送ることになっていました。（今回年賀状が入られていた封筒も一緒にご寄贈いただきました。）また、『がり版通信』が年末年始に発行されており、会の活動の様子を伝えています。

寄贈いただいた主要な版画誌

- 『白と黒』13-15, 17, 22, 24-50（昭6-9）『（再刊）白と黒』1, 2, 4（昭10）
『（第3次）白と黒』4（昭12）『版芸術』2-40, 42-58（昭7-11）『郷土玩具集』5-10（昭9-10）
『土俗玩具集』2-4, 6-10（昭10）『おもちゃ絵集』1-9（昭11）『版画研究』2（昭9）
『大衆版画』1（昭6）『HANGA』3, 11, 15（大13, 15, 昭5）『新版画』7（昭8）
『がり版通信』9, 10（昭14-15）『日本版画協会会報』2-31, 35-37（昭10-14, 17, 19）
『新版画Leaflet』1, 3（昭8-9）『版画荘』（昭8-11 欠有り）など

記録の中の“新選組” その2

新選組にまつわる事件等を記録した日記や風説書の記事については、「総合資料館だより」141号(2004年10月)で紹介しましたが、今回はその第2弾として、柳原家の慶応3(1867)年の「役所雑記」に記された新選組に関わる記事をいくつか紹介します。

柳原家は鎌倉時代末期から続く公家で、文筆の家として朝廷に仕える一方、武家伝奏や議奏等の要職を勤める人物を輩出した家でした。特に幕末期の当主光愛は公武合体派の公家として活躍し、文久3(1863)年よりは議奏を勤め、政局の推移に重要な役割を果たしていました。

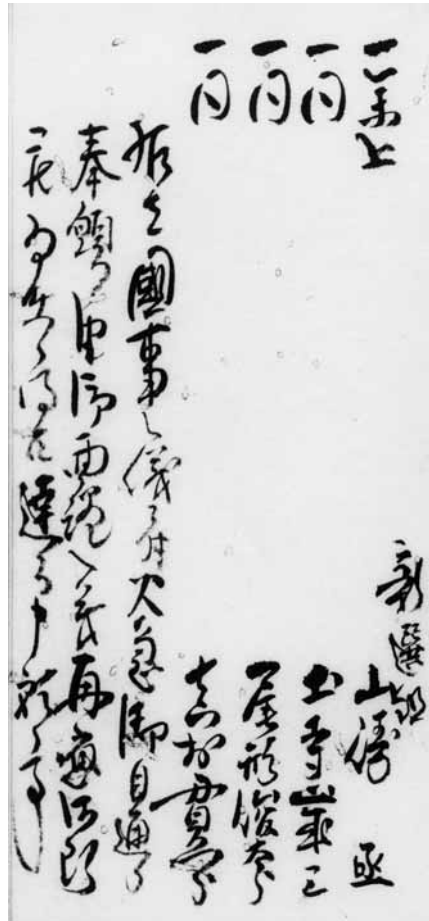
議奏というのは、関白に万事相談をして朝廷内外の事柄を掌る要職です。そのため、柳原家の役所には、多くの公家や武家達が挨拶や相談事等のために訪れました。今回紹介する「役所雑記」は、その役所に詰める当番家司が日々の来訪者やその対応等を記録した職務日誌で、風説書のように世間の噂等を書き留めたものに比べ、かなり信憑性のある情報といえるでしょう。

6月24日の項		(柳原家文書25)	
一参上	新選組	山崎	丞 <small>(丞)</small>
同		土旁	歳三 <small>(方)</small>
同		尾形俊太郎	
同		吉村貫一郎	
右者国事之儀ニ付火急御目通り奉願候由、御面談之義、再応御断被為在候得共、達而申願候事			

慶応3年6月24日に新選組副長の土方等4名が柳原・正親町両卿(いずれも議奏)の所へ参上し、局長近藤勇の建白書(第2次長州征討後の長州藩の処分に関する内容)を奉じたことは、

これまで
も「丁卯
ざっしゅうろく
雑拾録」

(名古屋の文人小寺玉晁が風説書や記録を収集し後日まとめたもの)等により知られていますが、この記事は正にその柳原卿訪問の様子を記した



たものです。土方等は、柳原卿に面談を2度も断われましたが、それでもなお強くお願いしたということです。

彼等の必死な様子が伝わってくるような記事です。

6月26日の項		(柳原家文書25)	
一参殿	幕士	渋沢成一郎	
		壬生浪	近藤勇
右之者共、拝謁願出候得共、依御断退散候也			

土方等が建白書を奉じた2日後、近藤勇自ら幕臣の渋沢とともに柳原卿への面会を願い出たが、断られて退散したという記事で、これまであまり知られていない珍しい情報です。

渋沢成一郎は、幕臣で將軍等の使いとして既に何度か柳原家を訪問した経験があり、近藤の案内役だったのでしょうか。ただ、彼も武蔵国の農家の出身で、幕府崩壊後に彰義隊を結成して新政府軍に反抗する等、近藤とは類似点が多い人物です。この時、近藤の考え方に賛同して同道したのかもしれませんが。

それにしても、文久3年9月に壬生浪士組から新選組へと名を改めてから4年も経つというのに、ここでは「壬生浪」という侮蔑的な呼称が記されています。実はこの記事

の少し前の6月10日に新選組隊士の幕臣への取り立てが決定したところで、近藤にしてみれば自信満々の時期でした。しかし、公家社会においては彼等は未だに軽んじられる存在であったということを、この記事が物語っているといえるでしょう。

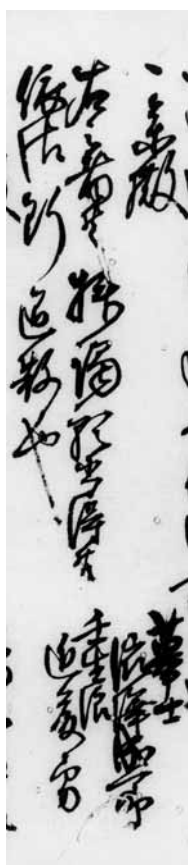
8月8日の項 (柳原家文書26)

一参殿 手札二認 禁裏御陵御 ■衛士ト認
如此 三木三郎

同断 御陵衛士ト認
篠原泰之進

右之者、元壬生浪士組合罷在候処、議論不合ニ付願書一通持参、拜謁願出候処、種永出會、件々聞取候処、伊東甲子太郎其余同志拾一人之旨言上、田舎之者不案内ニ付外々様江ハ不罷出、幕府江今日参上候旨也

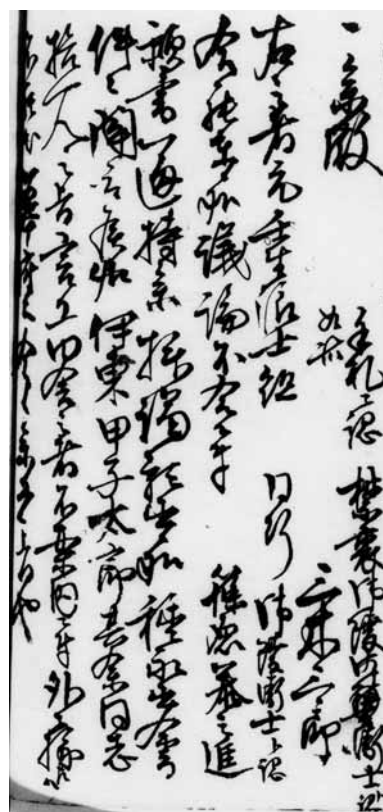
新選組から分かれて御陵衛士となった伊東甲子太郎等についての記事です。この願書というのは、「中山忠能履歴資料」(討幕派の公家中山忠能に関わる資料集)の中にある柳原卿と老中



板倉勝静かつきよに奉じられた建白書のことと思われるます。

この記事により、訪問したのが伊東の腹心の三木と篠原であったこと、対応したのが柳原卿ではなく柳原家の家司(種永)

だったこと、伊東の同志が11名だったこと、柳原卿訪問後に幕府(上洛中の板倉の所か)の方へ行ったこと等、細かい事実が分かります。



10月30日の項 (柳原家文書113)

一参殿 新撰組 近藤勇
右者依願御面会候也

6月に軽んじて面会もしなかった近藤勇に対して、10月にはあっさりと柳原卿自らが面会しました。それだけ近藤の存在が無視できなくなっていたと言うことでしょうか。

以上のように「役所雑記」には、幕末期に重要なポストにいた柳原家ならではの興味深い記事が多く含まれています。この資料は歴史資料課で閲覧できますので御利用ください。



(歴史資料課古文書担当 辻真澄)

❖❖❖❖ 最近の収集資料から(平成18年12月～平成19年2月) ❖❖❖❖

〈京都〉

上賀茂のもり・やしろ・まつり 大山喬平監修
思文閣出版 2006 10, 401p

空海のデザインと嵯峨天皇 坂口博翁著 大本
山大覚寺出版部 2006 197p 寄贈

北白川教会七十年史 一九九五年～二〇〇五年
日本基督教団北白川教会編集 日本基督教団北
白川教会 2006 311p 寄贈

上高野子ども風土記 京都市立上高野小学校創
立30周年記念事業実行委員会編 京都市立上高
野小学校創立30周年記念事業実行委員会 2006
132p 寄贈

大江山鉾山 中国人拉致・強制労働の真実 和
久田薫著 ウインかもがわ かもがわ出版(発売)
2006 239p 寄贈

京都大学における「学徒出陣」調査研究報告書
16・17年度総長裁量経費プロジェクト 第1巻,
第2巻 京都大学大学文書館編集 京都大学大
学文書館 2006 2冊 寄贈

あの頃の若き旅立ち 教育・研究・生活 稲葉
宏雄編集委員 京都大学教育学部第二期生有志
著 クリエイツかもがわ かもがわ出版(発売)
2006 402p 寄贈

島津分析機器「ひと・モノがたり」パイオニア
からリーダーへの60年 真壁英樹企画・編集責
任 島津製作所分析計測事業部 2006 618p
寄贈

証言・京都染織工芸の系譜 美術記者の聞き歩
き 藤慶之著 染織と生活社 2006 191p 図
版32p 寄贈

出井豊二作品集 はり絵京の町家 出井豊二著
ふくろう出版 2006 1冊 寄贈

京都職人 匠のてのひら 高階秀爾監修 水曜
社 2006 414p

京都語を学ぶ人のために 堀井令以知著 世界
思想社 2006 6, 177, 10p

〈人文〉

旧市町村名便覧 明治22年から現在まで 日本
加除出版株式会社編集部編 日本加除出版
2006 5, 786p

民間統計徹底活用ガイド 日本能率協会総合研
究所マーケティング・データ・バンク編 生活
情報センター 2006 269p

学校名変遷総覧 大学・高校編 日外アソシ
エーツ株式会社編 日外アソシエーツ 2006
50, 754p

中世伊勢神宮史の研究 平泉隆房著 吉川弘文
館 2006 3, 344, 6p

古代中世の政治と権力 義江彰夫編 吉川弘文
館 2006 11, 271p

明治維新期の政治文化 佐々木克編 思文閣出
版 2005 14, 367p

美学・美術史研究文献要覧 2000～2004 星山
晋也監修 日外アソシエーツ 2005 23, 873p

昭和期美術展覧会出品目録 戦前篇 東京文化
財研究所美術部編 東京文化財研究所 2006
925, 153p 寄贈

日本中世の仏師と社会 運慶と慶派・七条仏師
を中心に 根立研介著 塙書房 2006 3, 417, 30p

〈官庁〉

全国道路交通情勢調査 一般交通量調査報告書
道路交通センサス 平成17年度 京都府土木建
築部[編]刊 [2006] 188p

「京都府庁旧館等記録写真資料」公開

この度、京都府庁旧館の創建時の記録写真や知事官舎等の記録写真、合わせて111点の整理を終えましたので、公開中の写真資料に3月15日より新たに加えます。

京都府庁旧館は明治37(1904)年12月に竣工した建物で、今回の写真資料には工事中の写真、竣工後の写真、旧館工事以前にあった府庁式場の写真なども含まれています(府庁旧館関係は約40枚)。また、府庁以外の建物として、京都府立図書館、京都府知事官舎、京都府立第一中学校(洛北高校の前身)の工事写真などもあります。

いずれの写真も資料価値の高いものですので、是非一度ご覧ください。閲覧は、当館3階の文書閲覧室において、写真のコピーにて行っています。

友の会事務局から

平成19年度の友の会は、3月8日現在で261人の方にお申し込みいただいています。

友の会に入会いただきますと、総合資料館だよりや古文書解説講座の案内をお送りし、また、現地講座やバス旅行などにご参加いただけます。

随時申し込みを受け付けています。多数の方のご入会をお待ちしております。

問合せ先：友の会事務局

(当館庶務課内 TEL 075-723-4831)

古文書相談のご案内

○古文書の内容や解読についての相談

郵送による事前申込。申込方法の詳細については、次へお問い合わせください。

問合せ先：当館歴史資料課 TEL 075-723-4834

日誌(平成18年12月～19年2月)

- 11. 28(火)～12. 1(金) 第5回古文書解説講座
(一般Aコース)
- 12. 5(火)～12. 8(金) 第5回古文書解説講座
(一般Bコース)
- 1. 16(火) 第181、182、183回古文書相談
- 1. 19(金) 第184回古文書相談
- 2. 17(土)～3. 25(日) 企画展「先人達の京都研究」
- 2. 27(火) 第185回古文書相談

利用案内

休館日 祝日法に規定する休日、
毎月第2水曜日、資料整理期、
年末年始(12月28日～1月4日)

【4月～6月の休館日】

4月11日(休)、4月30日(休)、5月3日(祝)～
5月5日(祝)、5月9日(休)、6月13日(休)

開館時間 午前9時～午後4時30分

交通 京都市地下鉄烏丸線・北山駅下車
市バス④ ⑧ 北山駅前下車
京都バス⑳ ④⑤ 前萩町下車

ホームページ <http://www.pref.kyoto.jp/shiryokan/>

*総合資料館メールマガジンにご登録ください

発行 京都府立総合資料館
京都府立総合資料館友の会(振替 01030-2-11991)

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町1の4
TEL(075)723-4831 FAX(075)791-9466

○本誌に関するご意見・ご感想などを当館庶務課までお寄せください。